

名古屋市子ども読書活動推進計画への提言・要望

平成 19 年

日々学校の教育現場で、児童・生徒の読書活動の現状に、文字を読み、内容を正しく理解し、考えを深めるといふ点で強い危ぐを感じている私たちにとって、今回の名古屋市の子ども読書活動推進計画の策定は時機を得た施策であり、大変喜ばしいことである。

ただ、計画を検討してみると、次のような問題点があると考えられ、十分な配慮が望まれる。

子どもの読書活動を直接、学校で指導している立場から見ると、提案の多くが読書環境の設備・充実に重点を置いたものになっていると見受けられる。

この点の重要性を理解しないわけではないが、現在の児童・生徒を取り巻く課題は、もっと直接的に児童・生徒にどう指導し、読書活動を人的にサポートするかという点に関わるものと考えている。そうした観点からすると、今回の計画は、はなはだ不十分であるといわざるを得ない。

文部科学省の施策には、「司書教諭の配置と活用」が取り上げられ、それこそが学校図書館の充実、ひいては児童・生徒の読書活動の充実に直結していると考えられるにもかかわらず、この点についての言及が殆どなされていないことは問題である。

児童・生徒の読書活動推進に学校教育の場で、司書教諭に何を期待し、そこにどんな行政的な力を注ぐのかをもっと積極的に取りあげるべきではなかったのかと思う。

そこで、以下4項目を要望する。

- ・ 司書教諭の職務内容を明確にし、研修体制を確立する。
- ・ 学校図書館支援センター（資料面・運営面などで活動を支援する）を創設する。
- ・ 公共図書館や図書館(読書)ボランティアグループ・NPOとの人的連携を確保する。
(現状は個人的なつながりしかない)
- ・ 家庭、学校図書館、公共図書館、出版社、書店、地域文庫などの連絡協議会を構成する。

名古屋学校図書館の学校	代表	愛知大学講師	山田明彦
	世話係	名古屋市立志賀中学校司書教諭	杉戸直由

*名古屋学校図書館の学校（名古屋市内の中学校の司書教諭や図書館担当者10数名で、月に1度の割合で学習会を開いている）